

これでは、米子市は沈みます 近未来の希望・託せますか！

湊山の「史跡公園整備(素案)」

事業費の非公表&用地費・物件費を隠蔽？

旧米子城跡の、イベントの賑わいに、近未来の夢と希望が託せるのか！

二の丸から天守跡区域の国史跡指定は、平成18年1月。国指定後14年の歳月が流れた。市は、平成29年の「史跡保存活用計画」に続き、平成31年に「史跡整備計画」に着手した。

「史跡整備計画」の事業期間15年間。市長選3回を跨ぐ長期プラン。全体事業費12億5千万円を推定。うち市税負担分、5億円。

公共事業の計画に、事業費の全容を示さないことは異様。

事業費の内、生い茂る雑木の伐採費用は全額を算入せず、民有地の史跡追加予定地4ヶ所の用地費、物件費(補償費)は公表を拒み非公表。

しかも、市民に「意見公募」を求めながら、事業費の非公表、隠ぺいは、市民を欺き公僕に背く。

最も重要ことは、この「計画」に、

市民の意見を尊重するという、市政の基本姿勢が貫かれていない。

球場敷地の「国史跡」・ストップ 民有地3ヶ所、「用地代・先渡し」

球場敷地の借地と深浦、出山、飯山の民有地4所の、国史跡の追加指定を計画。

うち、球場敷地の借地、深浦、出山の3ヶ所は、短期(5年以内)で用地代を先払いし、整備(事業)は、10年先にずれ込む計画。

地権者に忖度した、国史跡の追加指定計画。本性丸出しの「史跡公園化」だ。

球場敷地の自由な土地活用に、国指定のストップを。深浦、出山に遺構は存在しない。

「史跡公園化計画」に

市民の合意は

諮られていない！

封建社会の権力文化か！

眺望に魅せられる観光文化か！

天守閣の消えた城跡。球場敷地の「史跡公園化計画」に、市民の「反対意見」は寄せられても、市長が「市民合意」を諮った形跡はない。

市民の合意も無く、史跡の遺構の無い民地の公有化は、不条理だ。

湊山公園の桜・名所が消える

(鳥大医)キャンパス用地と交換

「(球場敷地)今は、活用しません。」と、市への要望書を取り下げた鳥大医のキャンパス問題の先々。

「交換説」・多大な財政負担

市は、球場敷地の史跡公園化に執着し続け、鳥大医のキャンパス用地は、「桜の並木地」を用立てる交換説を模索している。

この「一挙両得」とも映る交換説は、「桜の並木地」の「公園代替用地」の確保という、多大な財政支出と市民から寄贈の桜名所を失う。

球場地の史跡指定

整備・多目的広場

しかも、球場敷地の史跡公園化は、東屋とベンチの広場整備に過ぎず、税金の投資効果は望めない。

ことばの整頓

***球場敷地の土地開発は、**
米子市と市民で決める。
文化庁の強制は無い。
国のペナルティーも無い。

***旧三の丸の史跡ゾーンは、**
*御殿(現球場敷地)*大手門(現商業施設)*搦手門(現病院)*土堀(現球場)の4区分とある。
*球場敷地は、旧三の丸跡の全域ではなく、一部分に過ぎない。